49

寛永諸家譜

清和源氏辛七典之内
義光流之内小笠原

内閣文庫
番號 和 20199
冊數 186 (49)
函號 特 76 1

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

秋山
高林
溝口
加美
安斗
水上

寛永諸家系圖傳

清和源氏

義光流

秋山

加美次郎家光ガ子秋山太郎

光朝ガ後裔

辛五

浅草文庫

光家

伯耆守

生國甲斐

虎康

越前ゟ　生国同前

昌秀

平右衛門　生国同前

武田信玄ゟ代々ゟ

東照大權現

台徳院殿へ代々ゟ

大坂夏度の御陣小　鉤命ゟ

御鎧ゟ御鉄炮ゟ行と

七十歳ゟ病死

昌吉

弥右衛門

大權現

台徳院殿

将軍家御三代へ代々ゟ

正重

十六藩門　修理亮　生國甲斐

台德院殿ふしたく（まうし）

大坂御陣のとき八御書院番（ごしょばんぐみ）と

なり仕ます

寛永四年十二月　従五位下に叙す（おごるげ　じょす）

うせたち

将軍家の御をとうとみ（おがみ）て大身（たいしん）なり

五十五歳にて死す

昌成

三十六藩門　生國武蔵

台德院殿ふしたくまうす

大坂夏の御陣より仕ます

正俊

十六藩門　生國同所

寛永九年十一月朔日

将軍家を祭（まつり）奉る

同十七年十一月廿九日　鈞命をかうむり

正重家督をたく

正家

大学助　生國同お

寛永十年十二月廿八日

将軍家を拝し奉る

同十八年十月十日　伯ふらて御

脇書ぜんぜんに役をなる

昌忠

六右衛門　生國同お

将軍家ふせうに奉る

このゝち忠ぜんにまつらひ

家級下膳松波義

国立公文書館
National Archives of Japan

秋山　生國信州

正次

雨宮源五右衛門
武田信虎より代々雨宮を名乗る秋山
土佐守と号す
法名道鐵

正重

地蔵　生國甲州

信玄の弟典厩信豊ふしたる　法名道感

伯正

甲斐守　生國同ぶり　法名廓心

寛永二年駿府よりおのく

東照大權現を祭り時ふ大久保長安

奏者たり

元和二年

台德院殿ふしたく奉る

正盛

九兵衛　生國同ぶり　法名選聖

大野治長が女を娶り遺跡をつぐ

大坂に死ス

大權現

台德院殿ふしたくまる正盛ハ

將軍家ふしたくまる

伯重（すけしげ）

生右衛門　生國同所

将軍家ゟ仕へ奉る

正武（まさたけ）

九兵衛　生國同所

将軍家ゟ仕へ奉る

家紋（もんのこと）下膨蓑

秋山

光重

加賀守　生國肥後

小条氏設[illegible]

正重

因義物　生國長列

小条氏直より其後十郎氏房より
為す
慶長十七年十月廿日岩付にて病死
七十一歳

正長
戸右衛門　生國甲斐
文禄元年名護屋御陣のとき
とうりう

正勝
東照大權現に奉仕し奉る
台德院殿小田原にて
御供

正勝
伊右衛門　生國相模
慶長十二年九月右出羽
台德院殿に拝し奉る
永く組に属し
勤む
伏見の御番二年

大坂再乱の節宗氏永組より
仕手
元和八年十一月八十騎の内を強
府より仕ハされ常御番を仕る
時正勝弓矢中より引
同九年御入洛の時正勝　勅命を
かうむり組頭より松平忠直組
小屬
寛永九年

勝貞
源右衛門
将軍家より仕へ
将軍家より仕へ
同十二年甲列ありて能を
将軍家より仕へ

朝正
七郎兵衛　生國武蔵

寛永十三年
将軍家と称し奉る
同十六年御切米を下さる

迎憲

市右衛門　生国同所
台徳院殿
将軍家より仕へ奉る
寛永十六年病死

憲治

迎三郎

家紋丸の内に松皮菱又丸内に野菊

国立公文書館
National Archives of Japan

高林

小笠原の末流なりと云ども先祖高林と称ふ

昌房

出雲守　生國甲斐　清名高雲

武田信虎信玄父子に仕ふ

昌京

又次郎

信玄ふしてう

永禄四年九月十日越後ゟ輝虎と

信玄と合戦のとき河中嶋ふかく

討死　法名常心

昌重

童名又十郎　後ハ五左衛門と号す

信玄ゟ頼ハ

天正十年

東照大権現甲州御入国の� 昌重

とり出さる中頃ゟ来地を給ハ

御朱印今ハ

同十二年毛利出久ゟ

大権現と秀吉と御合戦の時御

小田原ゟ首級を

同十八年

大權現小田原へ御金殿のとき供奉
慶長五年
台德院殿木曽路へ御出陣の時供奉
元和二年六十歳にて病死 法名常敬

直次
太郎左衛門
實ハ彼紀太郎左衛門ハ
生國江州小泉氏改ル

天正十八年
大權現関東御入國のとき為御
供奉
文禄元年名護屋陣へ供奉
慶長六年
台德院殿を祝し奉る

正成
与五右衛門 生國武州

元和五年
将軍家ゟ為[illegible]
なをしげ
直重
又十郎
寛永三年
将軍家ゟ[illegible]
家紋 三文字松皮菱

溝口

初め境と称す　境氏ハ平氏なり

後ハ溝口と称ス

●其

境務ノ

生國尾州

其

右近

生國同所

成常

新右衛門　生國同所
織田信長ニ仕ル信雄ニ仕ル善長秀吉
ニ屬す

重朝

五郎兵衛尉　生國同所
幼少ヨリ成常ニ仕ル外濠口

外記ニ養子ニ成リ家督ヲ仕ル
石徳院殿ヲ為謁シ奉リ大坂表ニ御
陣ニ供ヲ致す其後
松軍家ヲ為ス奉る

家紋　鶴羽二引ニ

国立公文書館
National Archives of Japan

溝口

小笠原の庶流なり溝口小伯耆ふ
れて称號とす

集

太京亮　生國信州

織田信長ふれて

常長

与十郎　生國尾州

織田信長小姓ニ成小豐臣秀吉ニつゝ

其後右出さるゝ

東照大權現小姓ニ成まつり

慶長六年病死　五十八歳　法名道鏡

常吉

外記　生國同州

寿永五年

右徳院殿ヶ為渡り小山陣真田陣ヶ

伝奉す

大坂夏の御陣の時　伯耆守御使

数ヶ為て伝奉す

元和七年正月二十六日病死　六十二歳

法名豊元

重長

半右衛門　生國同所

文禄二年十五歳の時召出され

台徳院殿へ参し御書院番を勤し

真田陣大坂御陣等小倉幸長後

将軍家へ参り下総国大田村角

田村小右衛門と為領す

寛永十九年　鈎命ふしにて出家す

常勝

彦左衛門　生國城州

寛永十四年

台徳院殿へ参り大坂両度の御陣

小倉幸

重恒

三右衛門　生國武蔵

重直

市右衛門　生国同ジ

栄

作右衛門　生国尾張

寛永七年石出さる

台徳院殿と為し奉る

同十九年伏見城番を勤む

元和元年大坂御陣に供奉

吉勝

作右衛門　生国武蔵

寛永三年病死　五十四歳

台徳院殿と為し奉る

家紋丸の内に三文字柏葉　或ハ丸内小三柏

国立公文書館
National Archives of Japan

加〻美

●葉

次郎右衛門　生田甲斐

武田伝玄小作

西光

力丸　生田貝右

天正十六年
東照大權現へ召出され大御番の組に入る
同十八年相列小田原御陣仕候
同十九年奥列御陣仕候
慶長五年関ヶ原御陣仕候
寛永五年五十七歳にて死　法名浄春

正吉
金右衛門　生国武蔵

慶長十六年
台徳院殿へ召出され大御番を勤む

正次
才蔵

家紋　松皮菱

国立公文書館
National Archives of Japan

安牛

秀勝

卿侍従の尉　生國三列

東照大權現へ召仕らる

重勝

九郎侍従の尉　生國同所

白滝院殿ふしたくまる

喜勝

九条兼孝の子　生國麻呂

寛永五年

白滝院殿

将軍家ふしたくまる

家紋亀甲の内小菊

時利

美濃　生國甲斐

武田信虎信玄父子ハ

天文十一年　飯富那ヨリ和ヲ合戦の

為ニ

先祖小笠原ヨリ之ヲ取ル所の名

ふるく水上と申ス

時宜名所ノ信玄國狀ヲさげくられ
詞ないく
七月五日来到南波郡宮河渡於
宿寺おく一戰頸一ツ討獲之殊
被疵事神妙ニ國入ハ弥ノ抽忠
信事肝要作法云
天文十一年九月廿五日　晴信在判
為二番濃ノ為

利光

六郎左衛門　生國同郡
信虎信玄攝類三代ヨリ仕ル
天正十年
東照大權現甲州御入国の時利光改
光又子おもよりおさし御案下
を給ハりて詞ないく
甲州御領中条内二百貫文ヲ
右領掌不一二有相違一ス状如件

天正十一年閏正月十四日

羽柴長九郎奉書も先例

政光

五位侍　生國同前

大權現

台德院殿

將軍家に仕へ奉る

重光

六位侍　生國甲斐

藏院殿より仕へ奉る

政憲

五位侍　生國武蔵

寛永十三年

將軍家に奉る

改重（まきしげ）

六月廿日　生國同所

家紋丸の内小松菱（まつびし）

集

六郎兵衛　生國甲斐
武田家へ仕る

系上

小笠原の末流たりとぞ
さいさく称号しとす

某

新宮　生國同所　法名宗房

東照大權現甲州入国の時初めて

仕へ奉る

種吉

新宮　生國同所

台德院殿へ仕へ奉る

實は内藤織部種次が子なり種吉が母は

妻女新宮を養子の婚なり新宮を

よりて種吉を取なく遣はしつ

しむ祖父内藤新藏は生國甲州武田

信玄勝頼父子に仕へ甲州没落の後

實父種次

大權現へ仕へ奉る小牧御陣の時備奉し

首級をうちとりて先を獻ず其後

台德院殿に仕へ奉る

内蔵　家紋蔵の丸

水上

家紋　松皮菱

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan